

第12回

エキサイトよこはま22

懇談会

2022年5月24日

1	横浜駅周辺を取り巻く状況	
○	国や市の動き	2
○	神奈川東部方面線	7
○	みなとみらい21地区	8
○	横浜国際園芸博覧会	10
2	エキサイトよこはま22：現在の取組	
○	西口周辺	12
○	東口周辺	17
○	治水	20
○	防災	25
○	エリアマネジメント	28
3	エキサイトよこはま22：新たな取組	
○	エキサイトよこはま22計画の更新	31

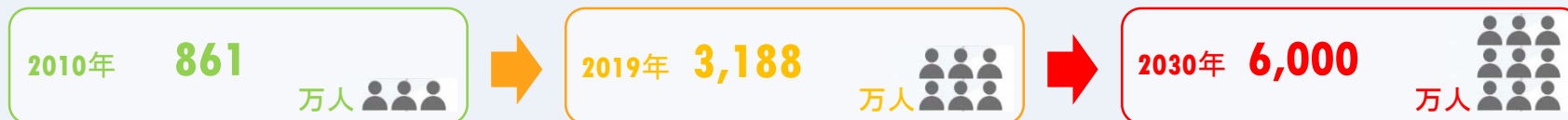
1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ 国や市の動き

1) 国の動き

観光

訪日外国人旅行者数と2030年次の目標数（年間）



参考：H23.1 JNTOリリース資料/R2.7観光ビジョン実現プログラム 2020

航空

首都圏空港（羽田・成田）の発着枠と2020年代後半次の目標（年間）



参考：R2.2 航空を取り巻く状況と今後の課題

鉄道 東京圏の都市鉄道が目指すべき姿

- (1) 国際競争力の強化に資する都市鉄道
- (2) 豊かな国民生活に資する都市鉄道
- (3) まちづくりと連携した持続可能な都市鉄道
- (4) 駅空間の質的進化 ～次世代ステーションの創造～
- (5) 信頼と安心の都市鉄道
- (6) 災害対策の強力な推進と取組の「見える化」

国際競争力の強化に資する都市鉄道の実現には

- ・航空・新幹線との連携強化
- ・国際競争力強化の拠点のまちづくりとの連携強化の推進が必要である。

➡ コロナの影響を受け
観光を取り巻く状況も変化

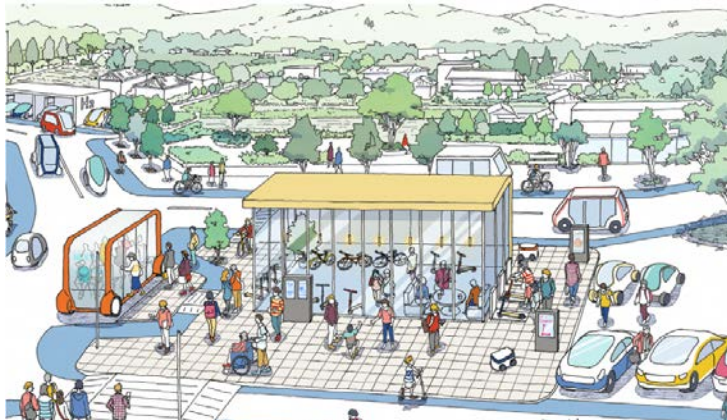
参考：東京圏における今後の都市鉄道のあり方について（答申）/H28.4.20/交通政策審議会

1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ 国や市の動き

1) 国の動き

都市空間、交通まちづくりに対する将来ビジョンが変化しており、**人中心の空間整備が進む**



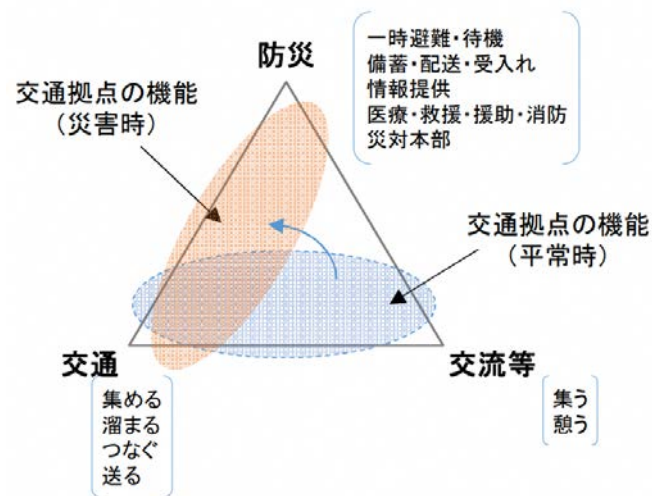
● 様々な交通モードの接続・乗換拠点（モビリティ・ハブ）の整備



● デジタル案内やスマホアプリ等による多言語の道・まち案内への対応



● MaaSや自動運転に対応した人が主役の都市交通ターミナルの整備



● 地域の拠点となる交通拠点では、多岐にわたる機能が必要

参考：2040年、道路の景色が変わる（国交省）／交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（国交省）

1 横浜駅周辺を取り巻く状況

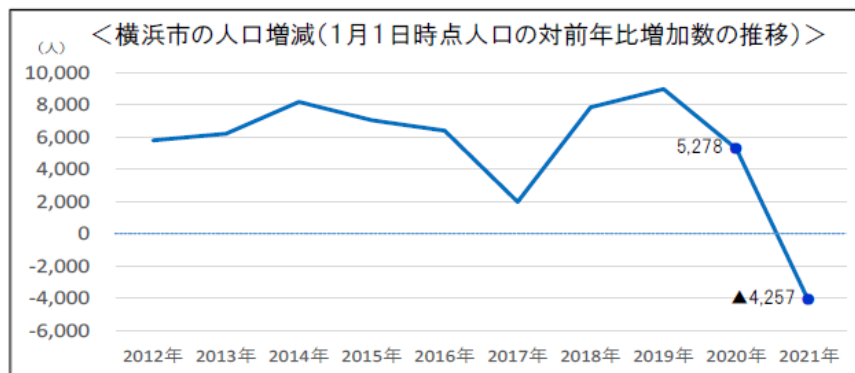
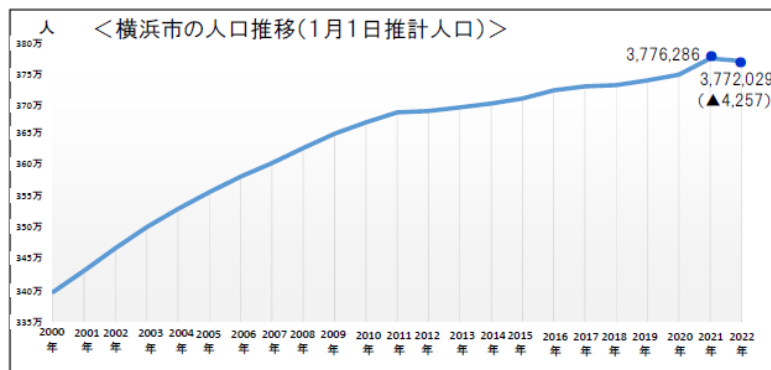
○ 国や市の動き

2) 市の動き

■ 横浜市状況・・・人口減少の兆し

- ・直近(2022年1月1日)の人口は、377万2,029人と前年同期と比べて4,257人減少
- ・2021年中の人口動態※が前年からマイナスになったのは戦後初めて

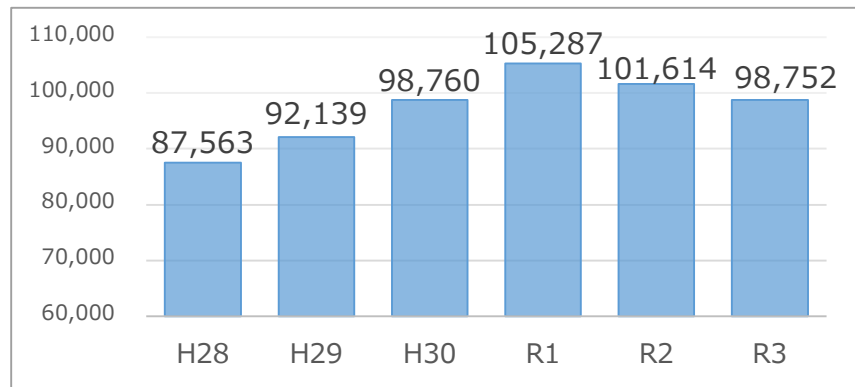
※人口動態:社会動態(一定期間における転入、転出等)と自然動態(一定期間における出生、死亡)を合わせた人口の動き



参考：令和4年度予算案について(令和4年1月28日市長会見資料)

■ 市内外国人人口

- ・市内の外国人人口は増加傾向
- ・令和元年度に、初めての10万人超え



参考：長期時系列データ(人口・世帯)-外国人(横浜市ホームページ)

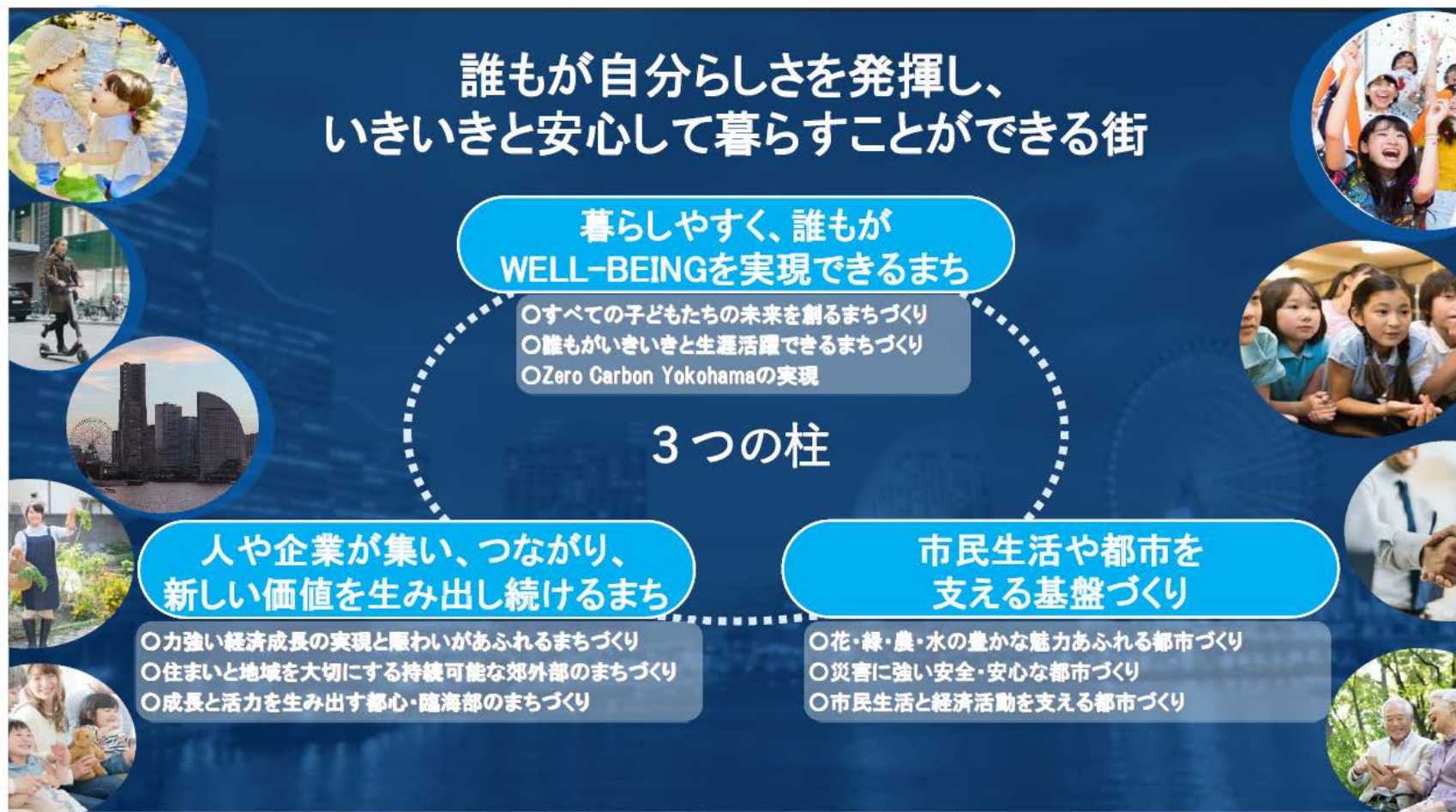
1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ 国や市の動き

2) 市の動き

■ 令和4年度予算編成の基本姿勢

「誰もが自分らしさを発揮し、いきいきと安心して暮らすことができる街」



1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ 国や市の動き

2) 市の動き

人や企業が集い、つながり、新しい価値を生み出し続けるまち

○ 成長と活力を生み出す都心・臨海部のまちづくり

■ 山下ふ頭用地の造成等

- 一 用地の造成、市民意見・事業提案募集、
新たな事業計画の策定に向けた検討 **NEW**

■ エキサイトよこはま22の推進

- 一 ステーションオアシス地区等の横浜駅周辺民間
開発の推進、東口駅前開発・基盤整備の検討

■ 関内・関外地区の活性化推進

- 一 横浜文化体育館の再整備(令和6年4月供用開始)



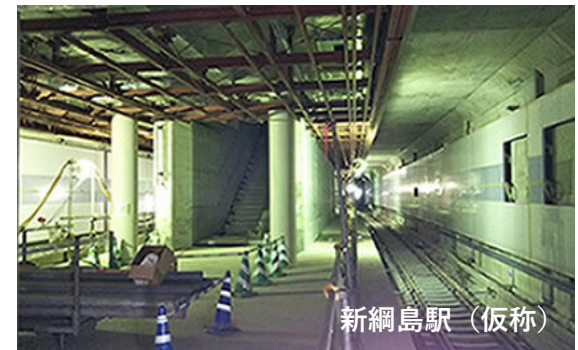
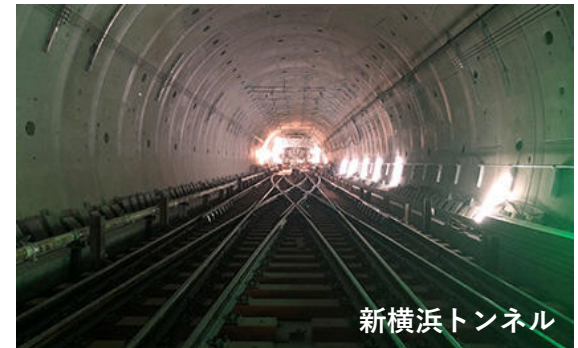
<横浜文化体育館完成イメージ>

1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ 神奈川東部方面線（相鉄・JR直通線、相鉄・東急直通線）

東京都心部との速達性の向上や広域鉄道ネットワークの形成等を図るため、神奈川東部方面線の整備が進められています。

- ・「相鉄・JR直通線」：令和元年11月30日 開業
- ・「相鉄・東急直通線」：令和5年3月開業予定



参考：鉄道・運輸機構ホームページ
相鉄・東急直通線（建設工事状況の様子）
2022年4月

1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ みなとみらい21地区：民間開発

令和4年度は2棟が竣工予定、街区開発(建設中・暫定利用含む)の進捗率は96%

(仮称)みなとみらい21中央地区
53街区開発計画 (オフィス、
店舗、オープンイノベーション
スペース、ホテル等)
令和6年3月 竣工予定



神奈川大学
みなとみらいキャンパス
(大学施設、研究施設等)
令和3年4月 開校



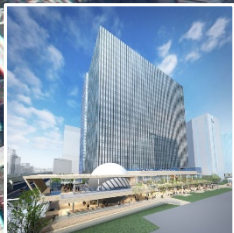
(仮称)みなとみらい21中央地区
37街区開発計画 (オフィス、
ホテル、店舗、駐車場)
令和5年1月 竣工予定



Kアリーナプロジェクト
(アリーナ、ホテル、
オフィス)
令和5年7月 竣工予定

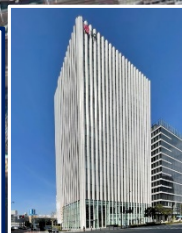


首都高速道路(株)
神奈川局
(オフィス、駐車場)
令和3年4月 オープン



横浜ゲートタワー
(オフィス、店舗、
プラネタリウム等)
令和4年3月 オープン

LG YOKOHAMA
INNOVATION CENTER
(研究所、事務所、
賑わい施設等)
令和4年3月 オープン



ウェスティンホテル横浜
The Apartment Bay
YOKOHAMA (ホテル)
令和4年5月 オープン予定



1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ みなとみらい21地区：交通施策等

<YOKOHAMA AIR CABINの運行開始>

桜木町駅前と新港ふ頭とを結ぶ“日本初”の常設都市型ロープウェイ「YOKOHAMA AIR CABIN（ヨコハマエアキャビン）」が令和3年4月22日に運行開始しました。



<電動キックボードシェアリングサービスの実証実験>

地区の魅力や回遊性を高める「交通ネットワークの充実」や、ラストワンマイルの「移動課題の低減」等を推進するため、電動キックボードのシェアリングサービスの実証実験を実施しています。

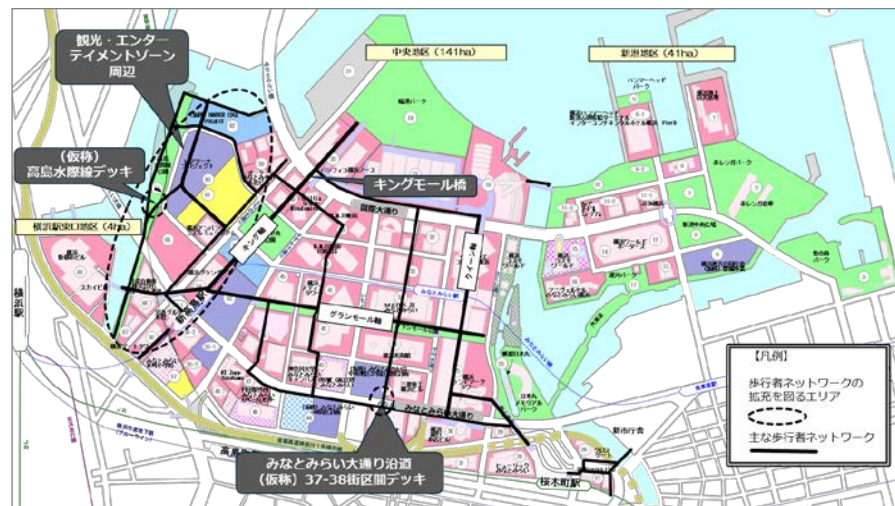
《実証実験サービス期間》

令和3年10月21日～令和4年9月30日



<歩行者ネットワークの整備>

街区開発の進捗に合わせた歩行者ネットワークの充実に向けて、観光・エンターテイメントゾーン周辺の「（仮称）高島水際線デッキ」、及びみなとみらい大通り沿道の「（仮称）37-38街区間デッキ」の整備を進めています。



<脱炭素化に向けた取組>

環境省が実施する「脱炭素先行地域」に選定され、電力消費に伴うCO₂の排出を令和12年度までに実質ゼロにすることなどを目指し、多様な取組を展開し、大都市における脱炭素化モデルを構築します。

1 横浜駅周辺を取り巻く状況

○ 横浜国際園芸博覧会

令和9年3月から旧上瀬谷通信施設（旭区・瀬谷区）で開催される横浜国際園芸博覧会に向けた取組を進めています。



2027横浜
国際園芸博覧会



横浜国際園芸博覧会

2027年3月
旧上瀬谷通信施設で開催します。

世界の花、
横浜で咲かせよう！

テーマ

幸せを創る明日の風景

Scenery of The Future for Happiness

幸せを感じる花、幸せを導く緑、幸せを運ぶ農（みのり）、それを支えるコミュニティと水と大地

花・緑・農などをシンボルとして持続可能な循環型社会に向けた日本モデルを提示

レガシーとして、博覧会で実装されるグリーンインフラ等とともに次世代へ継承

会場計画

会場コンセプト

里山で培われた思想・行動が未来を広げ、花と緑が輝き、人と自然が共に紡ぐ明日の風景

会場では、花や緑、自然と人とのつながりがもたらす様々な幸せにあふれた未来の風景を表現します。



会場配置イメージ

Villageイメージ

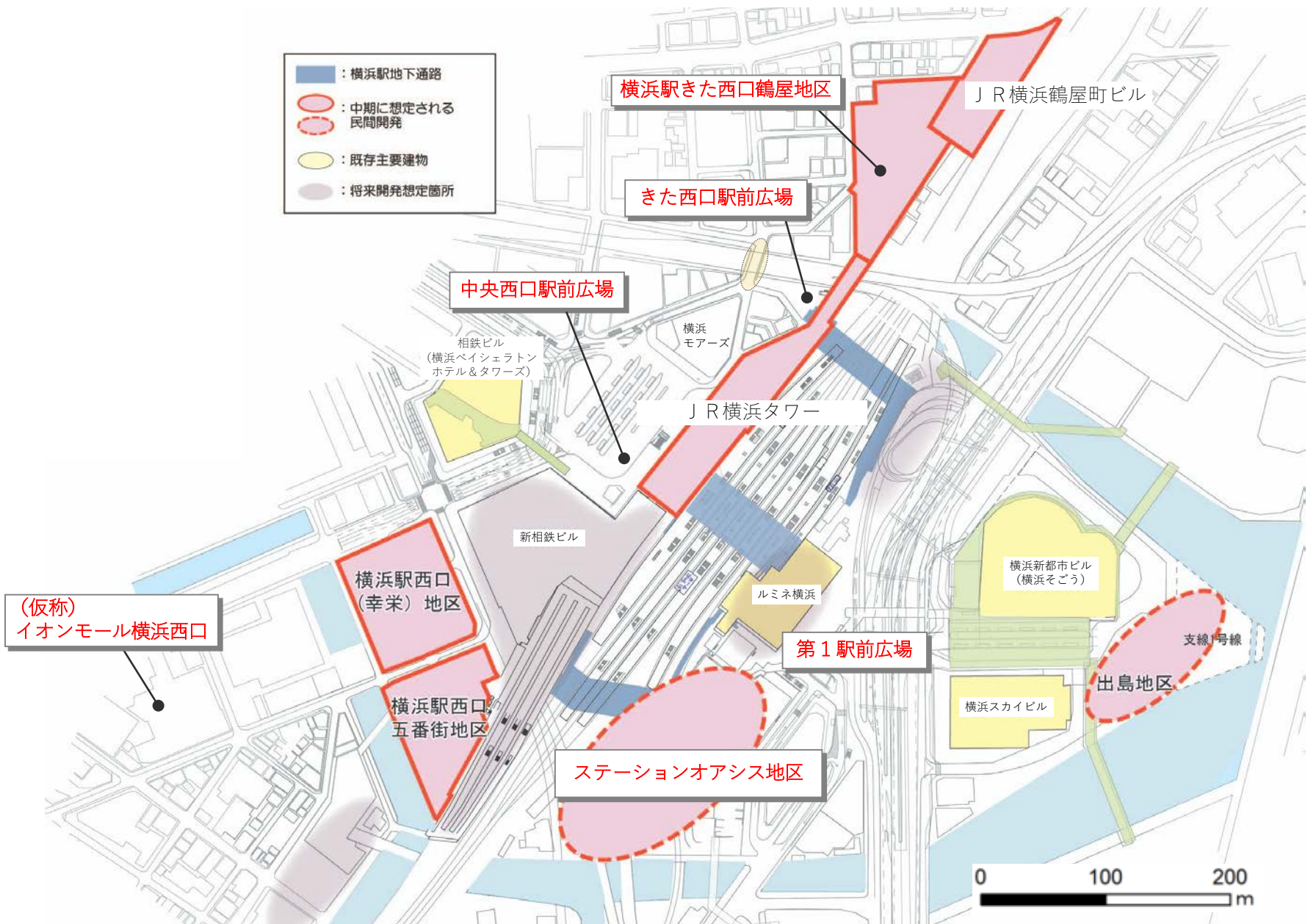


Village テーマを体現する多様なコンテンツの集合体(Village)を会場内に分散配置

- 会場内に6つのVillageを配置
- テーマの体現につながるメッセージを各Villageに設定し、多様な体験の機会を創る
- 各Villageでは、展示や観覧、飲食などの様々なコンテンツを配置し、来場者に様々な切り口でメッセージを提示

参考：横浜国際園芸博覧会パンフレット
(2021年9月発行)

2 エキサイトよこはま22：現在の取組



2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 西口周辺

- ・ 中央西口駅前広場
- ・ きた西口駅前広場
- ・ 横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発事業
- ・ ダイエー跡地 (仮称)イオンモール横浜西口

○ 東口周辺

○ 治水

○ 防災

○ エリアマネジメント

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 西口周辺 < 中央西口駅前広場 >

令和3年度に、JR横浜タワー前の屋根の供用を開始しました。
4年度は、高島屋前の屋根の整備を行います。



※整備内容については、関係者との協議により、一部変更する可能性があります。

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 西口周辺 <きた西口駅前広場>

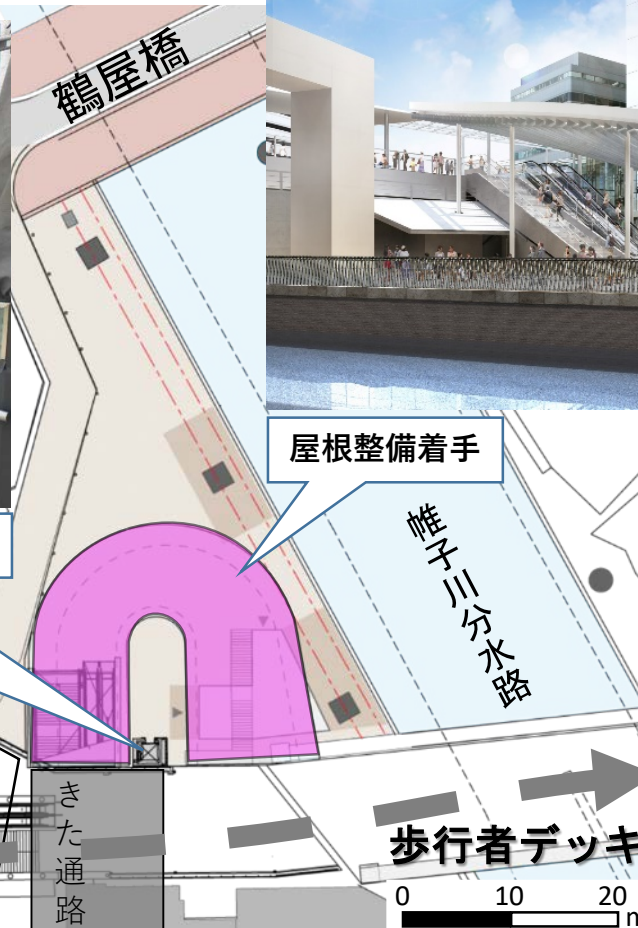
令和3年度は、工事に向けての関係者協議等を行い、
4年度は、屋根の整備を行います。
今年度中の完成を予定しています。



【整備済み】地下～デッキをつなぐエレベーター



(完成イメージパース)



屋根整備着手

帷子三分水路

きた通路

歩行者デッキ (はまレールウォーク)

JR横浜タワー

台町・
鶴屋町方面

※整備内容については、関係者との協議により、一部変更する可能性があります。

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 西口周辺 <横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発事業>

令和元年度に、解体工事に着手し、
4年度は、建築工事を進めています。

5年度末の竣工を予定しています。（事業完了 7年度予定）

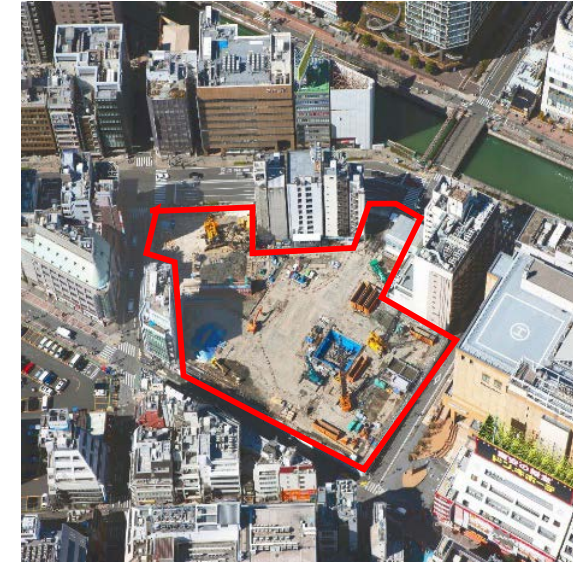


※図は、現時点で想定しているイメージであり、今後変更する場合があります。

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 西口周辺 <ダイエー跡地 (仮称)イオンモール横浜西口>

令和3年度に、解体工事に着手し、
4年度は、建築工事が行われています。
商業施設は、5年の秋頃の開業、
住宅施設は、7年1月竣工を予定されています。



令和4年2月撮影

令和4年2月撮影



住宅施設

商業施設



パルナード通り

横浜ビブレ(既存)



2 エキサイトよこはま22：現在の取組

- 西口周辺
- **東口周辺**
 - ・ステーションオアシス地区開発
 - ・駅前広場の再編
- 治水
- 防災
- エリアマネジメント

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 東口周辺 <ステーションオアシス地区開発>

令和3年度は、ステーションオアシス協議会において、駅周辺の良い都市環境の形成を目指し、基盤整備と連携した施設計画や、その事業性について検討を行いました。

4年度は、計画の取りまとめを急ぎ、事業化に向けた取組を進めます。



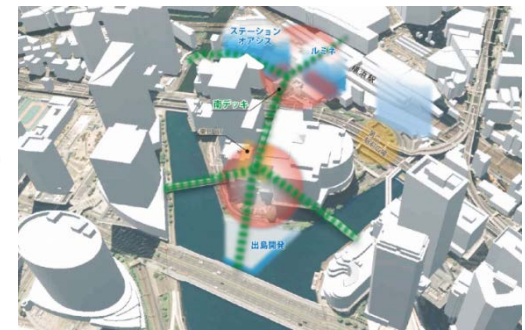
2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 東口周辺 < 駅前広場の再編 >

昨今の社会情勢の変化等を踏まえ、令和3年度に、「東口の再編方針（3つの方針）」を再整理しました。4年度は、再編方針を踏まえ、ステーションオアシス地区の開発に合わせた駅前広場やデッキ等の基盤整備計画を取りまとめます。

Open Sky Terminal

グローバルな交流拠点となり、国際都市の玄関口にふさわしい魅力に満ちた、安全で誇れるまちを目指します。



方針1

世界への玄関口、首都圏のリーディング都市となるマルチモーダルハブの形成

- ①首都圏最多の交通モードが集積する多機能交通ターミナル
- ②様々な利用者が満足して利用できる国内外や都心臨海部へのアクセシビリティ
- ③重層的に多様な都市基盤が複合整備された駅前空間
- ④多様なニーズを想定した分かりやすい歩行者動線

方針2

港町としてのシビックプライドを持ち、賑わいと憩いのあるシンボリックな横浜の顔づくり

- ①港町の風土・文化を継承し、横浜都心臨海部の核、顔としてふさわしい空間
- ②リンク&プレイスを意識した、適切な位置・規模のオープンスペース
- ③ウォーターフロントを活かした憩い
- ④クリエイティブワーカーが集うイノベーションや情報発信の拠点化

方針3

グローバル水準の都市機能を導入し、持続的な発展や次世代へつなげる未来都市を実現

- ①世界から信頼される地域防災力を備えた都市拠点
- ②柔軟性・可変性があり、時代の変化に適応
- ③DX化への対応による利便性の向上、唯一無二の体験、世界に誇る先進的空間
- ④日本屈指の産学官民の連携力を活かしたSDGs, ESG投資の牽引

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

- 西口周辺
- 東口周辺
- **治水**
 - ・ 公共下水道の整備
 - ・ 下水道管内水位の情報提供
 - ・ 内水ハザードマップの改定
 - ・ 帷子川水系流域治水プロジェクト
- 防災
- エリアマネジメント

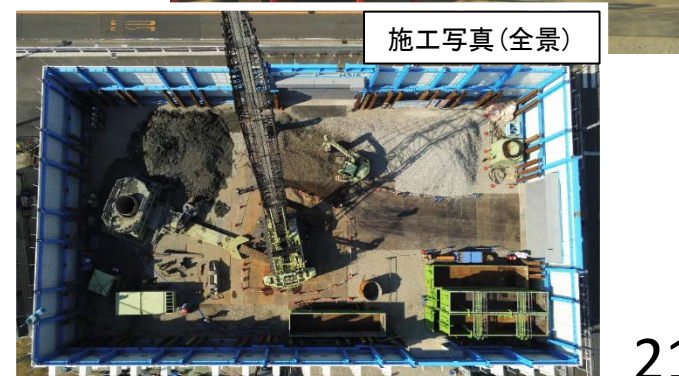
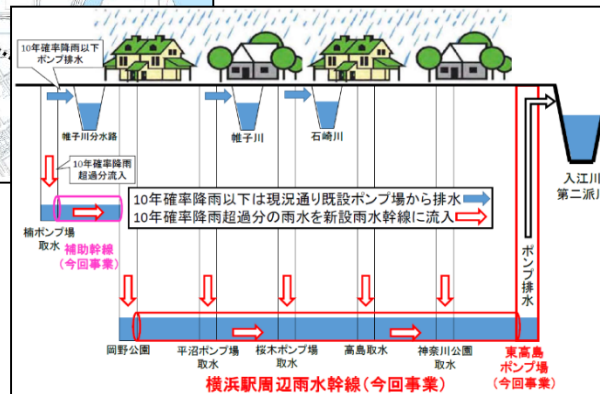
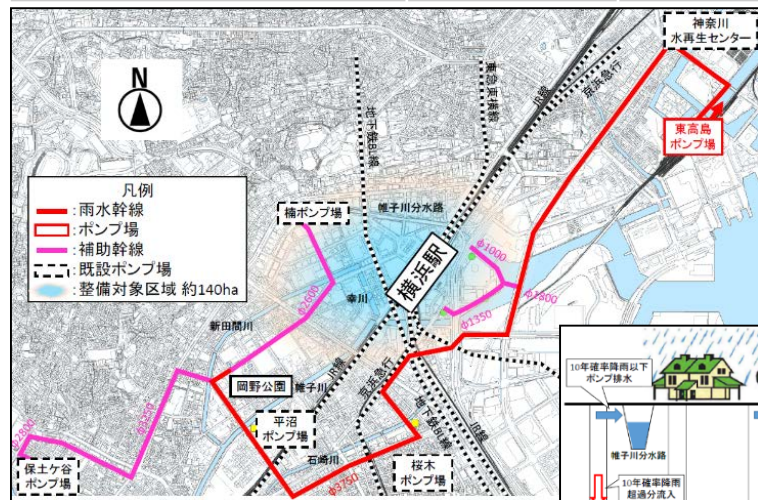
2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 治水 < 公共下水道の整備 >

西区の岡野公園グラウンド内にて、雨水幹線整備のための立坑の築造の工事を行っています。

令和4年度は、引き続き立坑の築造や、雨水幹線本体の工事発注などを行います。

事業スケジュール	総事業費	雨水幹線の諸元	補助幹線の諸元	雨水ポンプ場の諸元
令和2年度工事着手 令和12年度竣工予定	約410億円	内径：φ3750mm 延長：約4.9km	内径：φ700～3250mm 延長：約3.2km	規模：幅30m×長50m×深60m 能力：約6.0m ³ /s

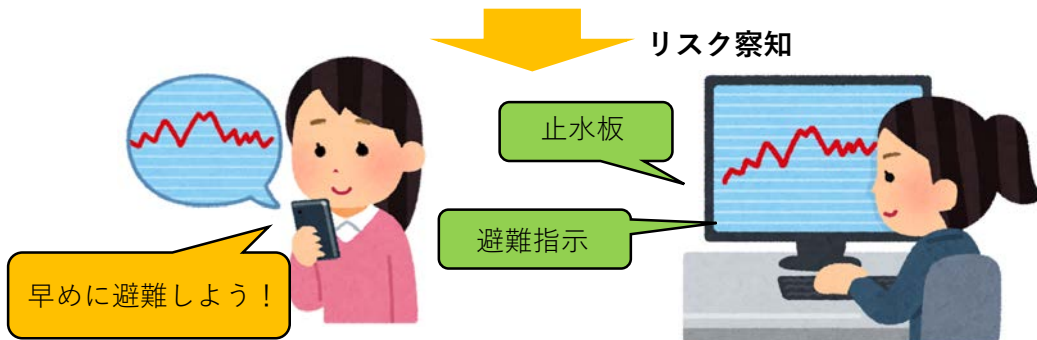
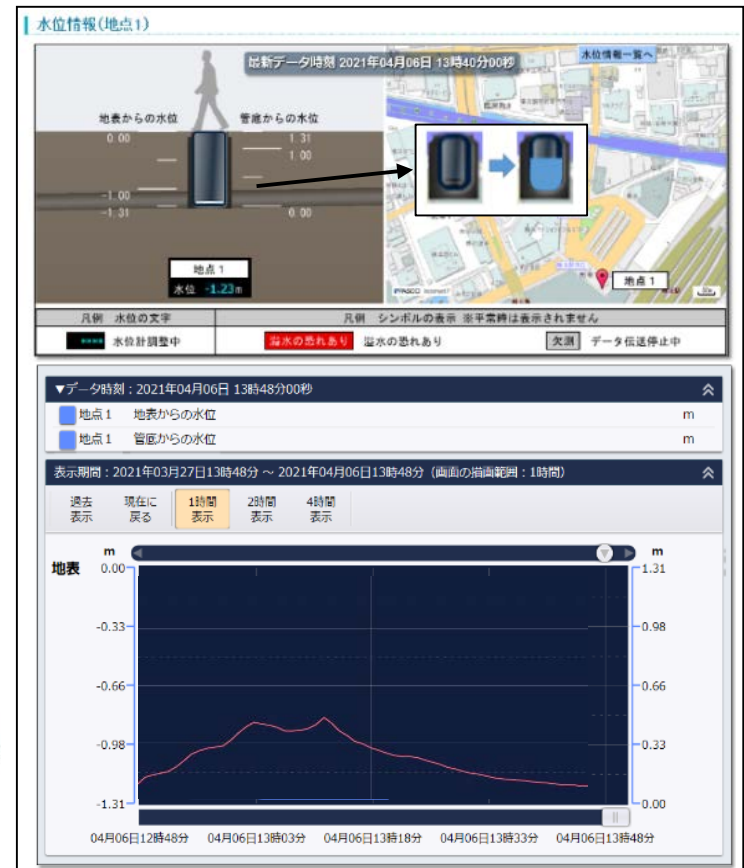


2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 治水 <下水道管内水位の情報提供>

令和3年6月から横浜駅西口4か所の下水道水位情報を本市ウェブサイト
で公表を開始しました。

4年度は、効果検証を行いながら、横浜駅東口などへの展開について検討
を進めます。

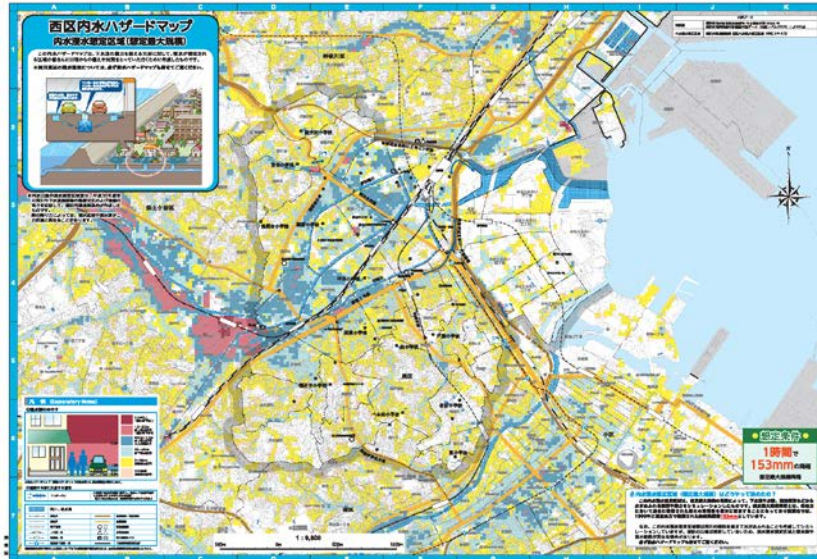
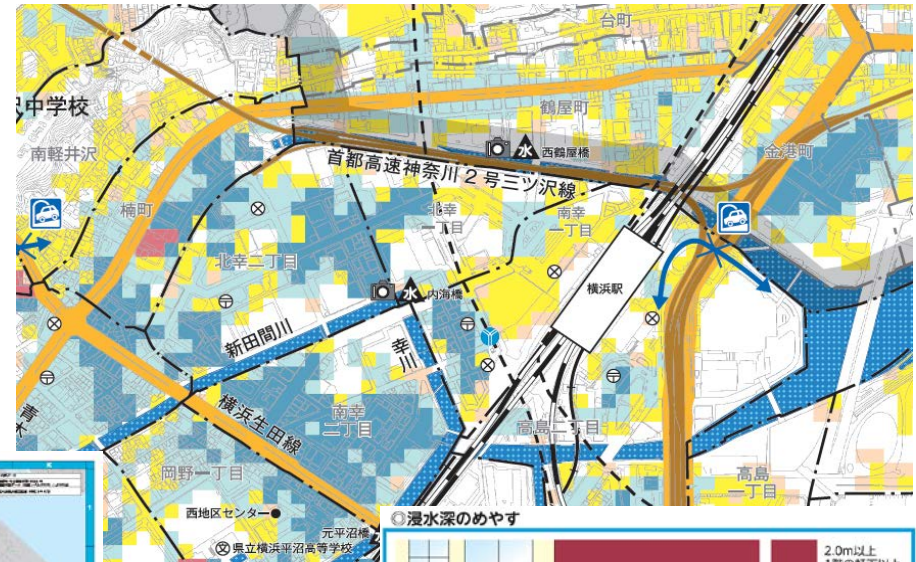


2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 治水 <内水ハザードマップの改定>

令和3年6月から「内水ハザードマップ」の対象降雨を想定最大規模降雨(153mm/h)に改定し、ホームページで公表を開始しました。

This informational page is divided into several sections. The top left features a blue header with the title '内水ハザードマップ' and '横浜市' (City of Yokohama). The main content area is titled '情報の入手方法と日頃からの備え' (How to get information and daily preparations). It includes a QR code, a list of '避難できる場所の目安' (Guidelines for evacuation locations), and various illustrations showing people taking precautions like checking water levels and securing outdoor items. A small diagram on the right shows a cross-section of a building and street during a flood.



This diagram illustrates the impact of different flood depths on buildings and vehicles. It shows a cross-section of a house and a car. A legend titled '◎浸水深のめやす' (Flood depth scale) provides the following information:

- 2.0m以上 (2.0m or more): 1階の軒下以上 (Above the eaves of the 1st floor)
- 1.0~2.0m (1.0~2.0m): 床上浸水相当 (Equivalent to water on the floor)
- 50cm~1.0m (50cm~1.0m): 1階の軒下まで (Up to the eaves of the 1st floor)
- 20~50cm (20~50cm): 床上浸水相当 (Equivalent to water on the floor)
- 2~20cm (2~20cm): 床下浸水相当 (Equivalent to water under the floor)
- 2cm未満 (Less than 2cm): 道路冠水相当 (Equivalent to road waterlogging)

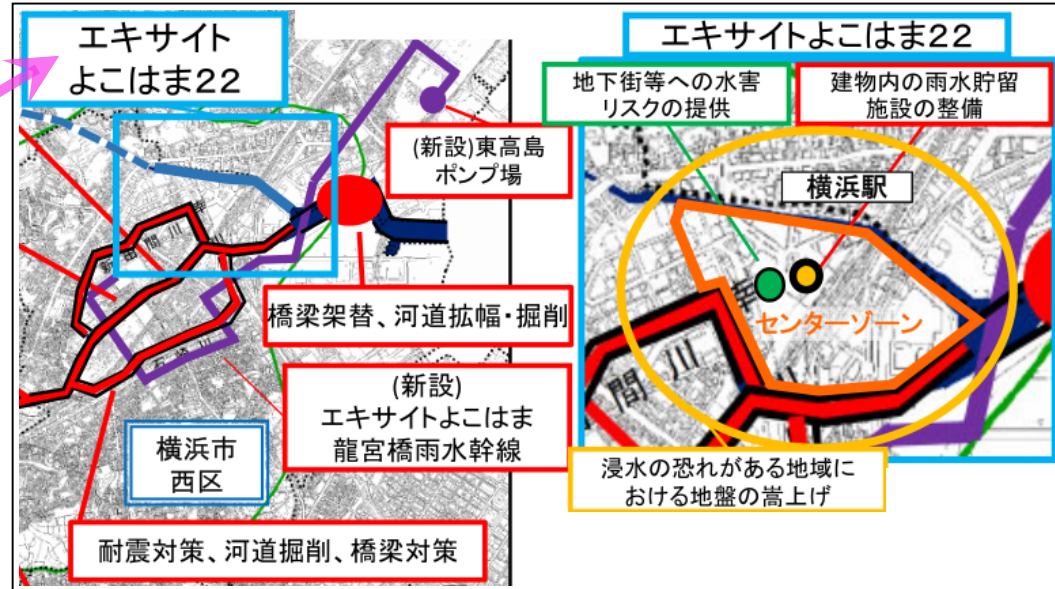
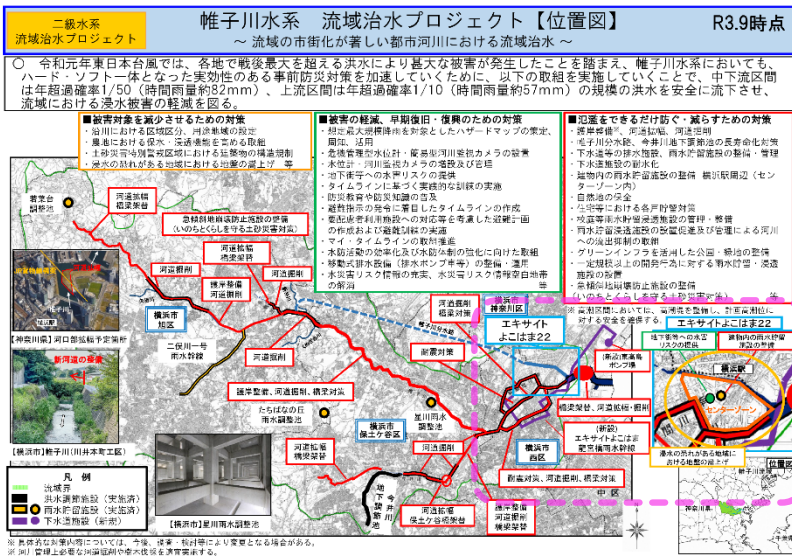
The diagram also shows a car being partially submerged in water, with a speech bubble indicating that water will enter the engine compartment.

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 治水 < 帷子川水系流域治水プロジェクト >

近年の激甚化する自然災害により、甚大な被害が発生したことを踏まえ、令和3年度に、帷子川流域治水協議会を設立し、流域治水プロジェクトを策定しました。

4年度は、引き続きハード・ソフト一体となった実効性のある防災対策の検討を進めていきます。



参考：神奈川県HP（二級水系の流域治水プロジェクト）

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

- 西口周辺
- 東口周辺
- 治水
- **防災**
 - ・ 横浜駅周辺総合防災センターの運用
 - ・ デジタルサイネージ等の活用
- エリアマネジメント

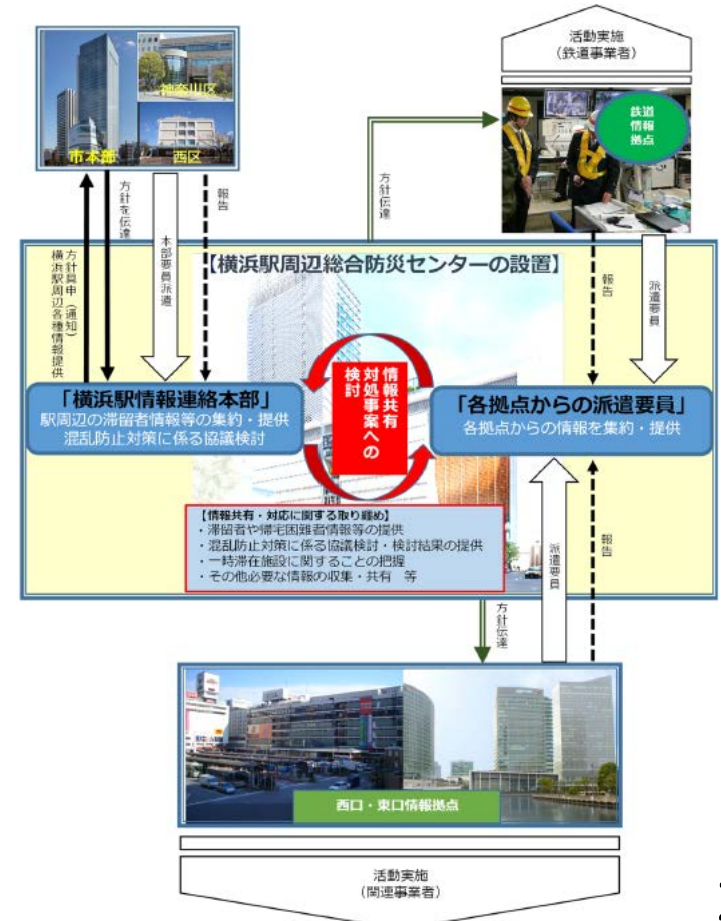
2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 防災 < 横浜駅周辺総合防災センターの運用 >

横浜駅周辺総合防災センターでは、市区要員で構成する「横浜駅情報連絡本部」と「各派遣要員」が連携し、防災性向上に取り組んでいます。令和3年度は、平日及び休日に発災した想定で訓練を2回実施しました。4年度も、引き続き訓練等を実施し、関係者間の連携を深めます。



震災想定訓練実施状況

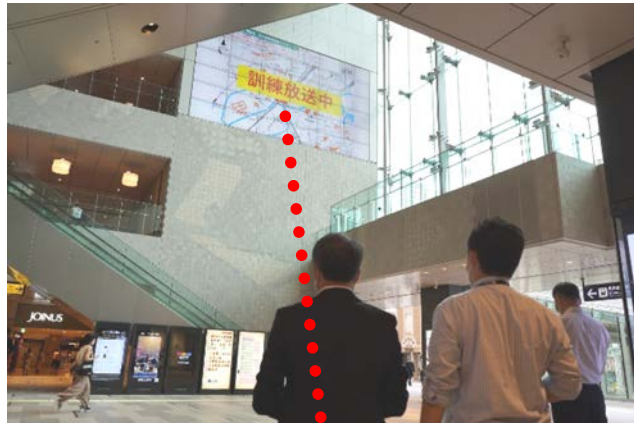


2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ 防災 < デジタルサイネージ等の活用 >

近年の急速なデジタル化の発展に伴い、横浜駅周辺についてもデジタルサイネージ等の広告媒体の活用に向けて取り組んでいます。令和3年度は、災害が発生した場合の滞留者・帰宅困難者等に対する既存施設等の情報発信体制についてアンケート調査を実施しました。4年度は、具体的な情報発信動画の作成等の検討を行います。

訓練放送の状況（JR横浜タワー）



横浜駅周辺の防災情報はこちら		横浜駅周辺の一時滞在施設の開設・運営状況はこちら	
日本語サイト			一時滞在施設NAVI
Scan this QR code for disaster preparedness information for the area around Yokohama Station			IN CASE OF AN EMERGENCY, PLEASE GO TO THE YOKOHAMA TOURIST INFORMATION CENTER (2nd Floor) FOR INFORMATION
English site		外国人の方々の情報は、2階横浜観光案内所で表示しています。	

滞留者・帰宅困難者避難マップ（上）
一時滞在施設NAVIのQRコード等の情報発信（下）

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

- 西口周辺
- 東口周辺
- 治水
- 防災
- **エリアマネジメント**

2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ エリアマネジメント

令和3年度は、西口の駅前広場や東口のはまテラスなどにおいて、イルミネーションを実施しました。みなみ西口の高島屋前では、道路協力団体の活動として、マルシェ等を開催しました。また、カヤックツアーや西口・東口合同による清掃活動も行いました。

西口イルミネーション



東口イルミネーション



道路協力団体の活動



西口イートテラス
(公共空間活用)



カヤックツアー



清掃活動



2 エキサイトよこはま22：現在の取組

○ エリアマネジメント

< 創造的イルミネーション事業との連携 >

令和4年度は、イルミネーションによる光の道を「みなとみらい21地区」「大さん橋エリア」から「横浜駅周辺エリア」にもつなげ、夜の横浜観光の目玉コンテンツとして、観光客等の回遊性の向上による地域の活性化を図っていきます。

提供：クリエイティブ・ライト・横浜実行委員会



< 横浜未来機構との連携 >

多様な人材が、組織や領域を越えてイノベーションを生み出すことを目指す横浜未来機構と連携し、令和4年度は、みなとみらい21地区をはじめとした周辺エリアと連携した取組を行うなど、更なる発展に向けエリアマネジメントを推進し、地区の価値向上を目指します。



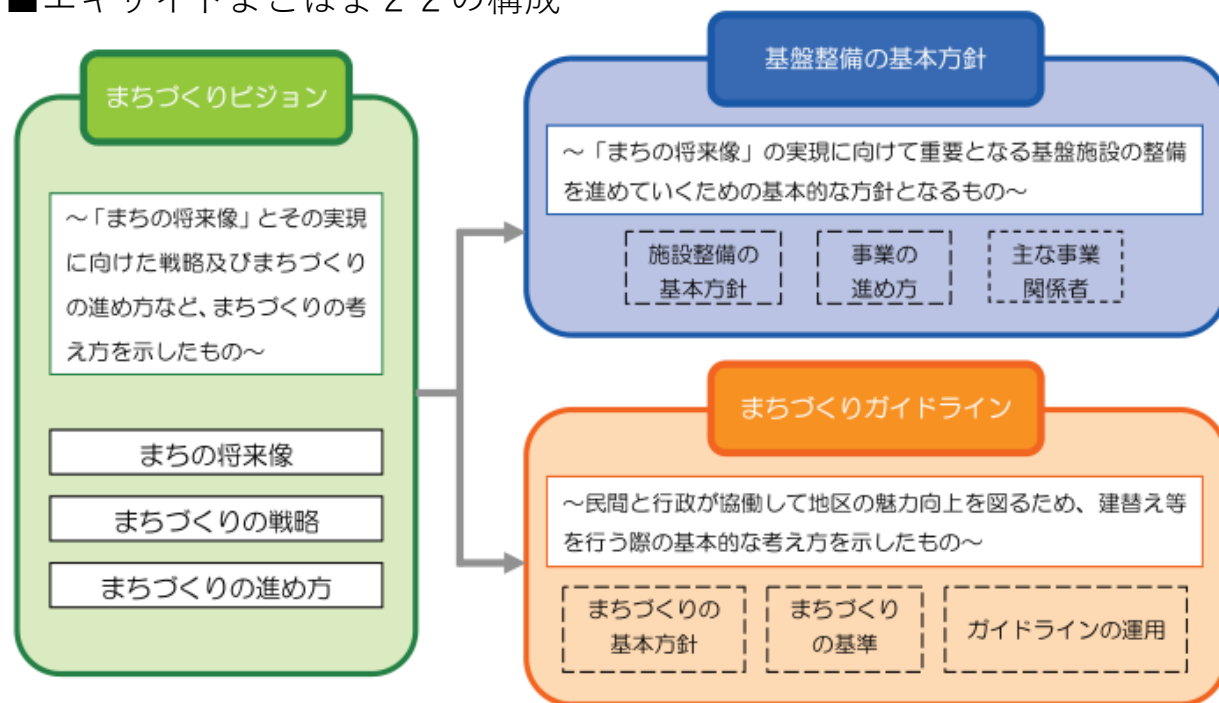
3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新

エキサイトよこはま22では、まちの将来像とまちづくりの考え方や方向性を民間と行政で共有するための「まちづくりビジョン」や、具体の整備を進めていくための「基盤整備の基本方針」と「まちづくりガイドライン」を策定しています。その基本方針やガイドラインは、まちづくりの進捗やその時代の考え方に応じて、進化・発展していくことを前提としています。



■ エキサイトよこはま22の構成



出典：「エキサイトよこはま22」（平成21年12月）

3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新～更新の必要性

横浜駅周辺では、駅直近において民間開発や基盤整備等が進み、都市機能の更新が図られました。一方で、依然として歩行者空間が不足しているなど、まちの将来像実現に向けた課題への取り組みと、駅直近から周辺部へ都市機能更新の波及が必要です。

< 民間開発の進展 >

(JR横浜タワーの完成) (JR横浜鶴屋町ビルの完成)



(横浜駅きた西口鶴屋地区の事業化)



< 西口駅前広場の再編 >

(中央西口)

(きた西口)



< 歩行者環境等の整備 >

(馬の背解消)

(鶴屋橋架け替え)

(東口エスカレーター)

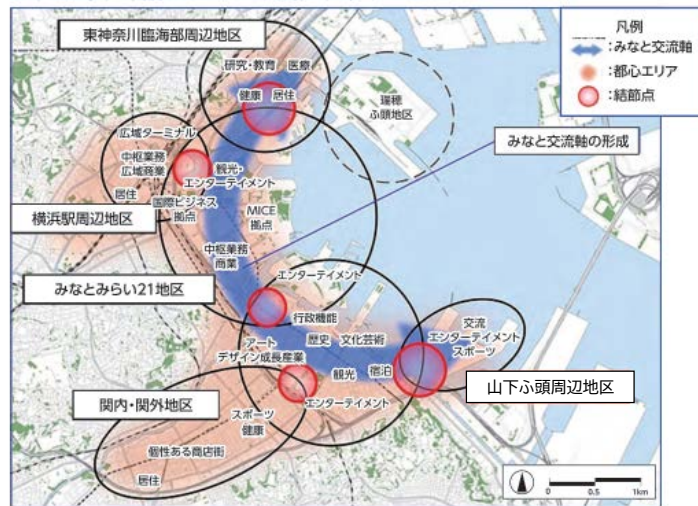


3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新～更新の必要性

また、横浜都心部のその他の地区においてもまちづくりが進展しています。特に、みなとみらい21地区では近年順調に開発が進み、横浜駅周辺地区との連携強化が急務となっています。

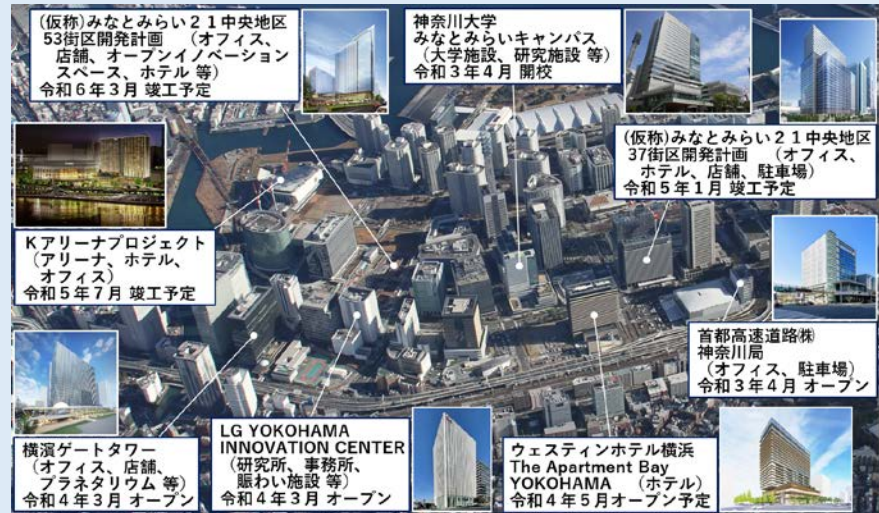
■都心臨海部の機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ



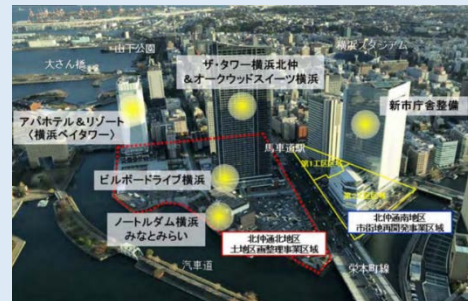
< 関内駅周辺地区 >



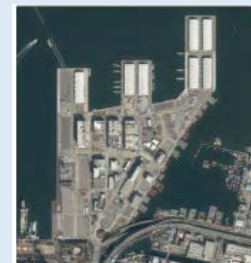
< みなとみらい21地区 >



< 山下ふ頭周辺地区 >



(北仲通地区)



3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新～更新の必要性

加えて、将来の社会経済情勢の大きな変化や様々な社会的課題に対応すべく、将来にわたって持続可能なまちづくりが求められています。そのため、策定当初に立てた戦略・方針・目標に対する再評価や検証を行い、計画の更新に取り組めます。

SDGs 未来都市・横浜 ～SDGs FutureCity YOKOHAMA～



参考：横浜市
「SDGs 未来都市・横浜」パンフレット

生活 様式

コロナ禍を契機とした、新しい生活様式

- ・ウォークアブルな空間
- ・ゆとりある空間やオープンスペースと緑
- ・リアルな出会いや交流、実体験の場
- ・公共交通のあり方 など

技術 革新

AIやIoT化といったデジタル化の進展、DXによる技術革新

- ・DXの推進 ・データや新技術の活用
- ・自動運転 ・MaaS ・新たな交通モード など

環境 対策

地球温暖化、気候変動の影響 に対する環境対策

- ・脱炭素化 ・再生可能エネルギー
- ・新たなエネルギー資源 など

防災 対策

激甚化する災害、切迫する大規模地震 に対する防災対策

- ・事業継続計画(BCP) ・防災レジリエンス(回復力)
- ・都市防災、事前防災のあり方 ・多様な避難環境 など

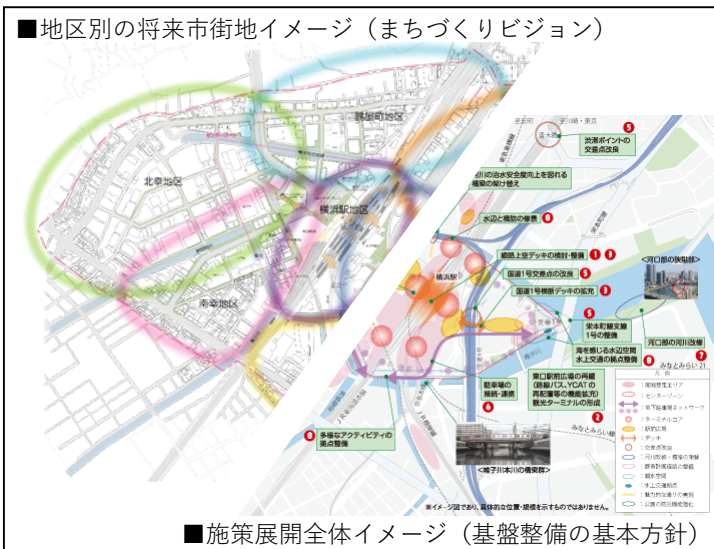
3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新～めざす未来の具体像

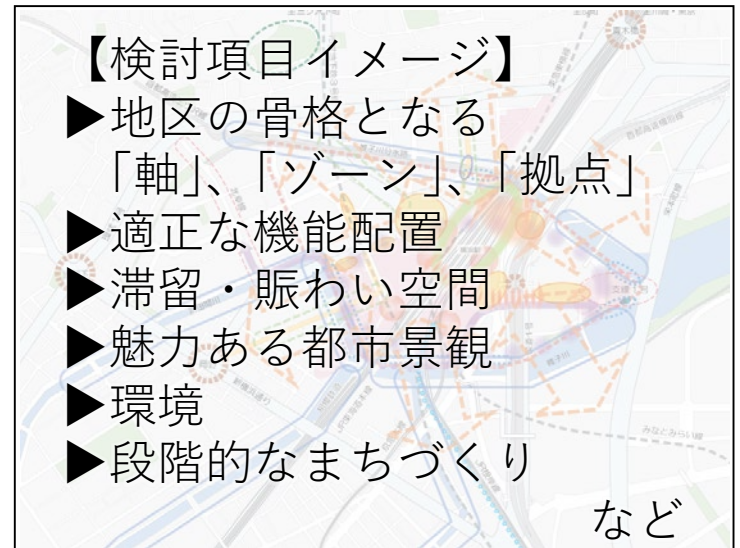
計画策定当初に描いた将来市街地イメージや施策展開全体イメージを再評価・検証した上で、めざす未来の具体像とその実現に向けた筋道を検討し、グランドデザインとして、新たなまちづくりの方向性を示します。地元の市民・関係者の皆様とまちづくりの方向性を共有できるツールとしてこれを活用します。

- 地区別の将来市街地イメージ
- 施策展開全体イメージ

- めざす未来の具体像（グランドデザイン）



- ・ 再評価
- ・ 検証

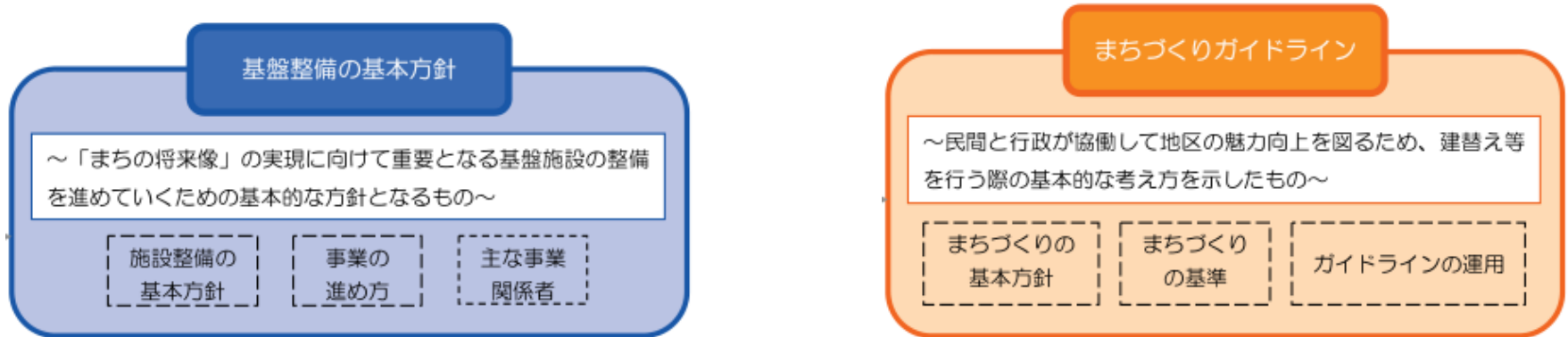


- 地区別の将来市街地イメージ（まちづくりビジョン）
- (1) 横浜駅地区～世界と横浜をつなぐ玄関口、ホスピタリティあふれる横浜の顔
- (2) 高島地区～横浜の発展を支える新しい都市機能と優れた景観・環境を備えた複合市街地
- (3) ポートサイド地区～「アートとデザイン」をテーマとする複合機能を備えた都心居住地
- (4) 南幸地区～様々な人々が楽しめる商業・文化・エンターテインメントのまち
- (5) 北幸地区～成長企業が地域に生まれ、有力企業に共存して活躍するビジネスのまち
- (6) 鶴屋町地区～明日をになう人材を育てる、交流・賑わいのまち
- (7) 平沼地区～横浜駅にもみなとみらいにもアクセスしやすい利便性の高い住宅・業務市街地

3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新

ランドデザインの実現に向けて、「基盤整備の基本方針」と「まちづくりガイドライン」についても適宜更新し、良好な開発誘導に繋げていきます。



基盤整備の基本方針

【施設整備の基本方針】

- 1 駅・鉄道
- 2 駅前広場
- 3 歩行者空間
- 4 自転車関係インフラ
- 5 道路（幹線、骨格となる道路）
- 6 駐車場
- 7 治水
- 8 親水
- 9 環境インフラ
- 10 防災・情報インフラ

各項目等について、
検証し、修正・見直しを進めます。

まちづくりガイドライン

【分野別の基本方針】

- 1 土地利用・空間形成分野
- 2 環境分野
- 3 防災・防犯分野
- 4 景観分野
- 5 歩行者・親水空間分野
- 6 交通環境分野

【地区別ガイドライン】

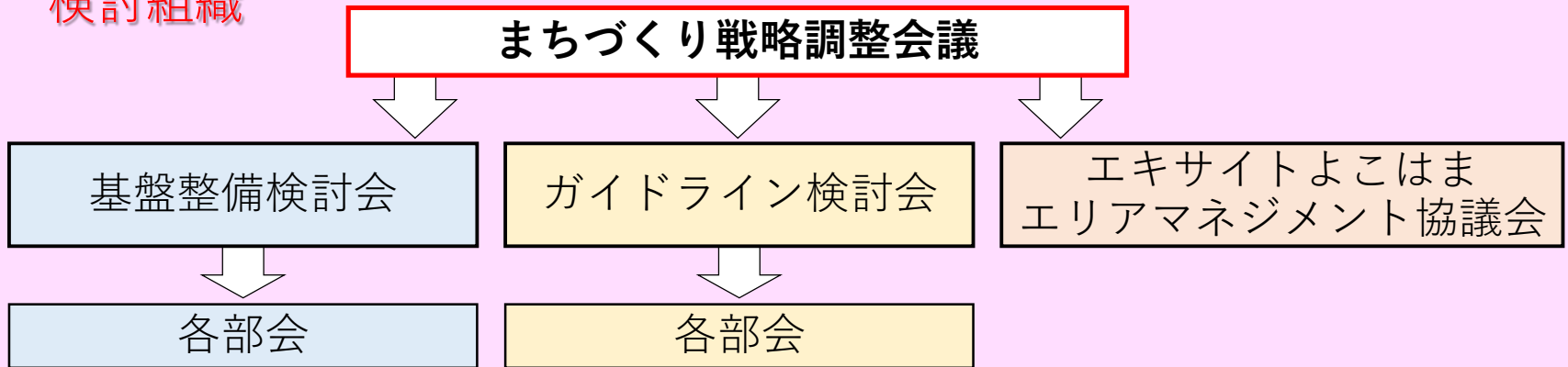
3 エキサイトよこはま22：新たな取組

○ エキサイトよこはま22計画の更新～進め方



令和4年度 まちづくり戦略調整会議を開催し、計画の検証、修正・見直しの方向性や項目について検討・確認
各検討会や部会により、具体的な方針等について検討

検討組織





エキサイトよこはま22の持続的な発展に向けて、
関係者と力を合わせてまちづくりを継続して進めます。
みなとみらい21地区の発展や社会情勢の変化に対応した、
国際都市の玄関口にふさわしいまちづくりを進めます。

